

“教育のゲーミフィケーション”を具現化！クラウド型学習システム「すらら」 「すらら」を活用した反転授業実施校で成果計測した4校中全てで成績向上

株式会社すららネット（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：湯野川孝彦）が展開するクラウド型学習システム「すらら」を活用し反転授業を実施している学校において、成果計測したところ4校中全てで成績の向上が見られたことをお知らせします。

※反転授業とは、従来、教室で一律講義していた内容を自宅でオンライン学習教材などを使って事前学習し、教室では講義の代わりに、学んだ知識の確認や応用的な問題に取り組み、生徒同士で協働学習などを行う形態の授業。

今回、「すらら」を活用した反転授業を実施している学校のうち、下記4校で成果計測した結果、全ての学校で成績が向上していることが分かりました。

【各校の成績計測結果】 ※各校の反転授業実施内容詳細は次ページを参照

■函館白百合学園中学高等学校（所在地：北海道函館市）

○成績向上成果：2014年5月と10月に実施したベネッセの進研模試において、ベネッセの学力指標 学力到達度ゾーンにおけるクラス学力平均が C1(目安偏差値 42.9～44.8)から B3(目安偏差値 44.9～49.6)に向上

○実施期間：2014年8月～現在

○対象学年クラス：高校1年生看護医療系コース 30名 ○教科：英語

■東京立正中学校・高等学校（所在地：東京都杉並区）

○成績向上成果：2014年7月と11月に実施したベネッセの進研模試において、コース平均偏差値が 48.8 から 49.8 に向上。昨対比では、2.8 ポイント上昇。

○実施期間：2014年5月～現在

○対象学年クラス：高校1年生アドバンスコース 30名 ○教科：英語

■広陵高等学校（所在地：広島県広島市）

○成績向上成果：2015年1月、ベネッセの進研模試のコース平均偏差値において、過去5年間で最高の値を獲得。2013年までの平均と比べ、2.9 ポイント上昇

○実施期間：2014年5月～現在

○対象学年クラス：高校1年生I類(特進コース)・2クラス 55名 ○教科：数学

■福島県の「私立高等学校」(学校名非公表)

○成績向上成果：2014年7月と11月にそれぞれ実施したベネッセの進研模試において、コース平均偏差値が 48.2 から 49.7 に向上。

○実施期間：2014年9月～現在

○対象学年クラス：高校2年生特進コース 55名 ○教科：数学

クラウド型学習システム「すらら」は、「生徒の自立学習支援」と「先生による学習状況の把握」という特長を持つことから、各学校における反転授業の教材として使われつつあります。

「すらら」は、学校の授業を受けていない生徒でもアニメキャラクターによるインタラクティブな学習で楽しく理解が進み、初めて学ぶ単元でも家庭での自学自習を可能とするため、「反転授業」の家庭学習教材として活用することが出来ます。また、先生は管理画面で生徒の学習進捗や理解の度合いをいつでも確認できるため、家庭学習を終えていない生徒に事前に学習を促したり、生徒の理解度を把握した上で授業設計をしたりということが可能となります。

その結果、家庭で十分な予習をすることで授業時間を有効活用でき、多くの学校で学力向上が実現できました。

すららネットでは、今後も、教育に携わる企業として、利用者の皆様の学習をサポートできるよう、教材・企画の開発に力を注いでいきたい、と考えております。

【各校における反転授業実施内容】

■函館白百合学園中学高等学校

隔週～月 1 程度の頻度で実施

- ① 1 週間から 2 週間前に家庭で「すらら」を利用し、教科書の内容を生徒が学習
- ② 授業の始めに、家庭学習時の疑問点を確認し、追加説明を実施
- ③ 授業はペアに分かれ、反転授業用に用意した英単語カードを使用した応用課題に取り組む
- ④ その後、授業内で個々にプリント課題で学習し、内容の理解を深める
- ⑤ 最後に、10 名ほどのグループを作り、協働学習に取り組む

■東京立正中学校・高等学校

週 2 コマで実施

- ① 家庭または放課後の図書館で、「すらら」を利用し、教科書の内容を生徒が学習
- ② 授業の始めに、家庭学習時の疑問点を確認し、追加説明を行う
- ③ 授業で教科書の問題や応用問題へ取り組む他、ペアワーク・発表といった学び合いを実施

■広陵高等学校

週 4～5 コマで実施

- ① 授業 1 週間前に教科書の内容に対応している「すらら」の該当箇所を生徒に指示し、家庭で学習
- ② 授業では、冒頭に「すらら」の類題を数問演習し、生徒の理解度を把握するとともに、つまづいている箇所を再度、解説し理解を促す
- ③ 教科書や問題集を使って演習を行い、最終的には応用レベルの問題を協働学習で取り組む
- ④ 最後に確認テストを行い、学習内容の定着度を確認

■福島県の「私立高等学校」(学校名非公表)

毎週 1 コマ～2 コマ実施

- ① 家庭または放課後の図書館で、「すらら」を利用し、教科書の内容を生徒が学習
- ② 授業開始と共に、生徒はペア、あるいは 4 人のグループに分かれ用意した課題に取り組む
- ③ 基本的に先生は生徒の取り組みが円滑に行われるよう支援役となり授業を実施

■クラウド型学習システム「すらら」とは

【学習範囲】 小学校高学年～高校3年生までの学習指導要領に準拠

【対応教科】 英語・数学（算数）・国語

【利用者数】 約28,000名（2014年5月末現在）

【特徴】

○Point 1 スモールステップでわかりやすいインタラクティブ授業

1つの単元は10から15分程度で、小さな階段を少しずつ上るような構成。

しかも授業は一方的ではなく、随所で先生役のキャラクターが問いかけを行い、問題に答えていくというインタラクティブスタイル。そのため、飽きることなく、適度な緊張感を持続し、楽しみながら学習を進めていくことが可能。

○Point 2 難易度調整や弱点診断ができる演習ドリル

一人ひとりの理解度に応じて出題される問題の難易度を調整する「出題難易度コントロールシステム」を搭載。「簡単すぎず難しすぎない」問題が出題されることで、達成感を感じ自信を深めながら、学習を進めることが可能に。また、何がわからないから問題が解けないのか理由を探る「弱点自動判別システム」も搭載。

○Point 3 現役の塾の先生による手厚いフォロー

いつまでどこまでの学習をするかといった「月1回の目標設定」や、つまづいているところがないか「週1回程度の電話やメールでの進捗確認」など、継続して取り組めるよう現役塾講師がフォロー。また、クラウド型学習だからこそ、学習内容や正答率・解く速さなども詳細に把握できるので、お子様一人ひとりに応じたきめ細やかな学習指導が可能。

<参考>これまでのオンライン学習教材の大半は以下の3パターン

1. 動画配信型：カリスマ講師のレクチャービデオを視聴するタイプ
「理解」にはすぐれているが「反復」の部分がないためやりっぱなしになってしまい、実力が身につかない傾向がある。また、一方的な説明となるため、比較的意識の高いお子様でないと、集中力が続かない。
2. 問題集型：問題集の結果をパソコンに打ち出して結果分析をするタイプ
「定着」にすぐれているが「理解」の部分がないため、学力の高い生徒でないと一人で学習を進めることが困難な傾向がある。
3. ゲーム型：携帯用ゲーム機などを使って学習するタイプ
非常に楽しく学習できるが、単語など反復による暗記系が中心で、体系的な学習には不向き。

「すらら」はこうしたそれぞれの短所を補い、長所を相乗効果的に組合せた、理想の"次世代型教育システム"です。

■すららの「ゲーミフィケーション的要素」

- ①他のユーザーと「総学習時間」や「クリアユニット数」で競い合う緊張感
- ②キャラクターによる対話形式で根本理解を深める本格的なレクチャー
- ③ドリルパートにて、生徒ごとにカスタマイズされた問題を解き、各ステージをクリアするという快感



努力指標（学習時間・クリアユニット数）におけるランキング

学習レベル：「累計総学習時間」「累計総クリアユニット数」によって自分のステータスが、ランクアップする仕組み

今日の目標一覧：自分or先生が設定した目標ユニットが表示される

クリアユニット数の推移

■株式会社すらら ネット 会社概要

- 設立：2008年8月 ○ 資本金：13,795万円 ○ 所在地：東京都千代田区内神田
- 事業内容：クラウド型学習システムによる教育サービスの提供および運用コンサルティング、マーケティングプロモーション及びホームページの運営
- 会社 URL： <http://surala.jp/>